

精液採取から conventional-IVF までの所要時間の超過は受精率の低下を招く

宮本 麻梨恵 中野 達也 松本 由香 佐藤 学 赤松 芳恵 橋本 周 前沢 忠志

姫野 隆雄 大西 洋子 井上 朋子 伊藤 啓二郎 中岡 義晴 森本 義晴

【目的】日本泌尿器科学会の精液検査標準化ガイドラインでは、精液採取後 1 時間以内に精液を持参することが望ましいとされている。臨床現場では、患者様宅から当院までの所要時間の違いや仕事量の増減による処理開始時間の違いにより、精液採取から処理を経て conventional-IVF (c-IVF) に至るまでの所要時間に 2-7 時間以上と幅がある。そこで、精液採取から c-IVF までの経過時間が受精率に及ぼす影響を後方視的に検討した。【対象と方法】本研究は十分なインフォーム・コンセントを得て実施した。2011 年 1 月～2012 年 4 月に当院で c-IVF を行った 650 周期を対象とし、それらの精液採取から c-IVF までの経過時間別に受精率を比較した。精液は密度勾配遠心法と Swim-up 法を用いて処理し、得られた運動精子を 15 万精子/ml にて媒精を行った。

検討 1：精液採取から処理を行うまでの時間経過が受精率に及ぼす影響を調べた。検討 2：精液採取から c-IVF までの時間経過が受精率に及ぼす影響を調べた。【結果】検討 1：自宅及び当院で精液採取後、処理を行うまでの時間を 1 時間未満、1-3 時間未満、3 時間以上で比較すると受精率はそれぞれ 67.8%、69.1%、56.8%となり、3 時間以上で有意に低下した ( $P < 0.05$ )。検討 2：精液採取から c-IVF までの時間を 5 時間未満、5-7 時間未満、7 時間以上で比較すると受精率はそれぞれ 70.1%、64.6%、60.0%となり、7 時間以上で有意に低下した ( $P < 0.05$ )。【考察】精液採取から 3 時間以内に処理を開始し、精液採取から 7 時間以内に c-IVF を行うことで受精率の低下を回避できる可能性が示唆された。また、自宅で精液採取後の移動時間が長い場合は院内での採取を勧めるべきであると考えられた。